



発行 三重県PTA連合会
編集 広報委員会
〒514-0061 津市一身田上津部田1234
三重県総合文化センター内
三重県生涯学習センター2F
TEL 059-233-1163
Eメール rengoukai01@mie-pta.com

県P連ホームページ <http://mie-pta.com/>

教育長対談 ― 福永教育長に聴く

「三重県教育ビジョン」とは!?

三重県では令和6年3月に、三重の教育のめざす姿とその実現に向けた取り組み内容および目標を示した令和6年度の中計計画として「三重県教育ビジョン」が示されました。

今回、三重県教育ビジョンで示された32の施策の中から「一人ひとりの自己肯定感を涵養する教育の推進」を中心に、福永教育長に直接お話を伺いました。



対談の参加者

- ・福永 和伸 教育長
- ・大屋 慎一 副教育長
- ・中村 陽明 教育総務課主幹兼係長
- ・木原 剛弘 三重県PTA連合会会長
- ・磯和 雅志 三重県PTA連合会専務理事
- ・石川 幸弘 三重県PTA連合会事務局長

自己肯定感を涵養する教育とは!

木原 今回、新たに示された「三重県教育ビジョン」において、「一人ひとりの自己肯定感を涵養する教育の推進」を32の施策の最初に掲げていますが、最初に掲げたことに何か思いがあるのですか?

福永 知事が教育施策の基本的な考え方などを示す「三重県教育施策大綱」において、「いじめ問題」「自己肯定感」を重要課題として取り入れていることを踏まえ、ビジョンにおいても重要な課題として捉えています。

コロナ禍を経てこのいまの時代に、様々な影響が生じてきていて、精神的にいろいろな不安等を抱えている子どもたちが増えているというのは調査結果にも表れています。その一つの事案として不登校児童生徒が増えているし、いじめの認知件数が増えています。こうしたことが自己肯定感とものすごく関係している部分があると捉えています。

また国の教育振興基本計画で「ウェルビーイング」ということが強調されていますが、この

「ウェルビーイング」を子どもたちが感じられる、その素地になってくるものも自己肯定感でありますので、いろんな要素を考えたとき自己肯定感がとても重要であるということで、施策の一番に掲げています。

木原 具体的に自己肯定感を高める学校教育という点、どういった点がポイントとなるのですか?

福永 ポイントは教員の子どもへの接し方だと思います。

ここがすごく重要なので、どういった接し方、学級づくり、学校づくり、授業のあり方をしていけばよいのかを、まず教員が身に付けることが重要であると考えています。そのために今年、モデル校を小学校3校、中学校3校、県立学校2校の8校選定し、どのようにしたら自己肯定感が高まるかをモデル的に取り組んでいただいています。次年度もこのモデル校の取り組みを拡大していきたいと考えています。もちろんモデル事業を行っているだけではダメです。誰もが自己肯定感を高めるためにポイントだったのかというのを評価し、その重要な部分を県内全体の学校に広げていきたいと考えています。

木原 なるほど。いま取り組みはじめたところで、これからということですね。

福永 今ちょうど、1年目のモデル校が実施している最中なので、どのような感じで取り組みしていただいているのかを学校訪問での見学等により確認させていただいています。

学校からは非常に好評をいただいているので、モデル校事業を拡充してほしいという声もあります。また、先ほども申し上げたように、何がポイントなのかをできる限り抽出して、県内の学校に展開していきたいと考えています。

木原 自己肯定感というものが、学力のようには試験で測ることのできないもの、なかなか目に見えず測りにくいものであり、自己肯定感を育むということは大変難しいのかもしれないです。

福永 どう測るかは難しいですが、毎年行っている全国学力学習状況調査に「自分にはよいところがあると思うか」というような設問があるので、この問いかけで肯定的な回答が増えたかどうかを見るのは非常に有効かとは思っています。

あとレジャース教育というものをやっているのですが、これも自己肯定感を高めるのにつ

ながるようです。もともと自己肯定感の低い子どもについて改善が見られるという結果がでているようです。

大屋

例えば、自己肯定感を高めるためのひとつに、テスト等の点数のみではなく、どのような意欲的に取り組むかに焦点を当てる場合があります。これは、教員がすべての子どもたちに押しつけるのではなく、できることができず、子どもたち自身も「できるできない」に視点を向けることができ、自分を前向きに認めることにつながることを期待できます。

木原 われわれ多くの保護者が体験してきたままでの学校教育からの転換期にきているということでしょうか。

福永 「わかる喜び、学ぶ楽しさ」を感じ取れる授業づくりに変えていこうという気運はものすごく出ていますね。

木原 三重県教育ビジョンにおいても「表現力」などの非認知能力の大切さについて触れられています。これからの小中学校においても、この非認知能力に視点を向けた取り組みが進むというと思っています。

その中で、これも三重県教育ビジョンにも示されているのですが「幼保小の架け橋プログラム」の取り組みについても期待をしています。

福永 幼保小の連携については、以前から言われているのですが、まだまだの部分もあります。

木原 この架け橋プログラムについては、幼保小のみならず、小学校と中学校の連結についても今後ますます進むかと思っています。

また、幼稚園については同じ校区の小学校に進むことが多いと思いますが、保育園については校区外に進むことも多いと思いますので、校区だけの取り組みでなく、ある程度広域でも共有を進めていくことが必要だと思います。

子どもたちも先生もみんなの「ウェルビーイング」をめざす!

木原 先ほど「ウェルビーイング」というお話もありましたが、子どもたちが幸せと思えるためには、子どもたちだけが幸せではダメで、子どもたちの周りの大人もいっしょに幸せな状態であれば、子どもたちは幸せを実感できないのではないかと思います。そうした意味でも、教職員の方が元気で子どもたちと関わるこ

とができるように働き方改革は前に進めていくことが必要だと思っています。

福永 私も20年くらい前から、教職員の働き方改革に取り組んでいるのですが、その頃に比べれば、随分と改革されています。例えば、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどいろいろな外部の専門家や、スクールサポートスタッフという補助の方が学校に入り、

教員をサポートしています。お陰で時間外労働は以前に比べれば減少してきています。ただ、まだまだ充分でないのも事実ですので、しっかりと取り組みを進めていきます。

若い人が教職員を志さなくなった理由の一番は時間外労働ですが、二番は保護者や地域のみなさんとのやりとりで不安を感じるというものです。実際に先日教職員への調査を行ったところ、長時間対応や不当と思われる要求への対応などのカスタマーハラスメントと思われる事案が、それなりの数ある事が分かりました。

木原 私たち保護者もどうしても我が子のこととなると熱心になってしまいう側面があるのかもしれないですね。熱心のあまり、無意識の中でそうしたカスタマーハラスメントとなってしまうことがあるかもしれませんので、改めて私たちPTAとしても保護者のみなさんに理解を促していくことが必要だと思います。

福永 ぜひご協力をよろしくお願いします。

木原 はい。先ほども申し上げましたが、子どもたちが幸せな状態にあるためには、先生たちも元気で幸せな状態である必要がある、子どもも保護者も先生もともに「ウェルビーイング」であることが必要だと考えますので、その意味においても教職員の働き方改革やカスタマーハ

80回 日本PTA東海北陸ブロック研究大会

愛知大会

令和6年10月25日(金)・26日(土)、第80回日本PTA東海北陸ブロック研究大会愛知大会がNiterira日本特殊陶業市民会館開会にて開催されました。「誇りを胸に 笑顔を繋ぐ心の輪」をテーマに、1日目は愛知県内3施設で6つの分科会が、2日目は全体会・記念公演がおこなわれました。

東海北陸ブロックの6県1市から多くの参加者が集まり、PTA活動を進めていく上での情報共有を図る機会となりました。

参加した第5分科会では、最初に三重県四日市市立塩浜中学校PTAより「コロナ禍を経てなお、見直し、継続していく地域連携と地域性と小規模校の特性を生かした、伝統文化の継承」というタイトルで、小さな地域ならではの連携の良さを生かしたPTA活動の数々を紹介いただきました。

次に、愛知県岡崎市立大門小学校PTAより「地域社会との緊密な連携を築こう」というタイトルで、地域の方々とPTA、学校の三者がより協力をし、子どもたちを見守っている活動を紹介いただきました。

2日目の全体会では、オープニングアトラクションとして、豊田大谷高等学校ダンス部によ

ラスメントの防止など、私たち保護者としてもできることは前に進めていく必要があると思いますので、ぜひ教育委員会と一緒に取り組みを進めることができればと思います。

本日はありがとうございました。

自己肯定感

一般的には「自尊感情」「自己有用感」などと表現されることもあります。三重県教育ビジョンでは、ありのままの自分をかけがえのない存在として肯定的にとらえる感情を「自己肯定感」という用語で広くとらえています。

非認知能力

主に意欲・意志・情動・社会性に係わる3つの要素(①自分の目標をめざして粘り強く取り組む、②そのためにやり方を調整し工夫する、③友人と同じ目標に向けて協力し合う。)からなります。

ウェルビーイング

身体的・精神的・社会的によい状態にあることをいい、短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義など将来にわたる持続的な幸福を含むものです。また、個人のみならず、個人を取り巻く場や地域、社会が持続的によい状態であることを含む包括的な概念です。

る笑顔と元気と感動あふれる発表が行われました。また、東海北陸ブロック協議会の功労者表彰を三重県より3名の方が受賞されました。

その後の記念公演では、愛知子どもたちの幸せと平和を願う合唱団と、ともに歌う合唱団による11曲の合唱曲から構成された合唱構成「ぞうれつしゃがやってきた」が行われました。

この作品は戦時中の動物の殺処分や戦後の特別列車で子どもたちがゾウを見るまでの実話を基にした合唱曲で、戦争で動物を巻き込んだ悲劇や、平和の大切さについて考えるきっかけになってほしいという思いや、人間も動物も笑い、泣き、歌い、懸命に生きた姿を子どもも大人も一緒に楽しんでほしいという思いが込められているとのことでした。

東海北陸ブロック協議会功労者表彰

- ◆ 杉戸 雅巳(前会長)
- ◆ 森 絵里(前副会長)
- ◆ 岡田真由美(元常務理事)



第52回
三重県教育県民集会



令和6年11月9日(土)、白山総合文化センターしらさぎホールにおいて、三重県教育関係団体懇談会(六者懇)の主催、三重県教育委員会、三重県市町教育委員会連合協議会の後援による「三重県の教育を考える集い」が開催されました。

まずは、六者懇木原会長より主催者代表あいさつとして、日頃の活動に対する感謝の意と、今後の活動に対してもより良い教育環境の整備を引き続き目指していくために、引き続きご理解とご協力を賜りたい旨を申し上げました。

来賓である一見知事のあいさつでは、いじめなどの問題、学力向上の問題、教



員不足の課題が挙げられ、今後も取り組んでいく旨が語られました。

その後の講演会では、「子どものしあわせと読書」というテーマで、子どもの本専門店メリーゴーランド店主である増田善昭さんを講師に迎え、ご講演を務めていただきました。とても素敵な絵本の紹介とともに、子どもの幸せについて示唆のある言葉をたくさんいただきました。

例えば、フィランドでは、すべてが子ども優先の社会が作られているなど、日本との違いを教えてくださいました。また、よくある風景であると思いますが、「子どもが話している時にスマホを触っているのは恥ずべき事である」ということも再認識させていただきました。「人が人を育てる」と、教育の本質的なことを示唆していただきました。また、つい

つい大人がしてしまう行為だと思いが、「上から目線で子どもとのつきあいはやめよう」ということもおっしゃっていました。読書を通じて、「一人一人と向き合うこと」など、子どものしあわせについて深く考えさせられる講演となりました。

今回の機会を通して、六者懇の活動の紹介を行っていただいたり、三重県の今後の方向性を知ることができたり、また講演会では子どものしあわせについて深く考えることができたりと、参加した方も熱心に耳を傾けていただく様子が見られ、とても有意義な「三重県の教育を考える集い」となりました。



令和6年度
三重県幼小中高PTA研修会

令和6年10月1日(火)、三重生涯学習センター視聴覚教室において、「令和6年度三重県幼小中高PTA研修会」を三重県PTA連合会の主管にて開催いたしました。研修会には、幼稚園・こども園・小中高の保護者や教職員80名が参加されました。

講師には、県内で建築会社の代表の仕事をするながら、ラジオパーソナリティとしても様々な活動や発信をされている、通称まっちゃんこと松林秀典さんをお招きして、「自己肯定感を正しく知り、豊かな人生を送るコツ」と題してご講演いただきました。

今回の研修会は、三重の宝である子どもたちが夢や希望を持って生き生きと自分らしく生きていくことができるよう、三重県教育大綱の3つの柱にも示されている「自己肯定感」について、様々な視点から深く学ぶことのできる機会となりました。

ました。講演会では、各自が自己肯定感の状態を正しく知ることによって主体性が育まれることにつながり、それが自分の人生を切り拓く力や、自分の人生を自分らしく豊かに感じることにつながることを学ばせていただきました。

途中「人生を豊かにする20の質問チェックシート」に参加者全員で取り組む時間が設けられ、より自分ごととして捉える機会にもなりました。また、講演後には質疑応答も活発に行われ、子どもへの向き合い方に課題を抱えたり、悩んでいる実情を全体で共有するなど、気づきの多い時間となりました。

これからは「ありがとう」「うれしい」「楽しい」「大丈夫」「何とかなる」といった自己信頼感につながる『肯定語』を使って、心豊かな人生に向かって過ごしていきたいと思えます。



令和6年度
日本PTA全国協議会
年次表彰式

令和6年11月15日、ホテルニューオータニ(東京都)にて、令和6年度日本PTA全国協議会年次表彰式が開催され、三重県から2団体、個人3名が表彰されました。表彰者のみなさん、おめでとうございます。



表彰者

日本PTA全国協議会会長表彰 団体

伊勢市立有緒小学校
津市立上野小学校

日本PTA全国協議会会長表彰 個人

高井真寿美
磯和雅志
山田純也

東海北陸ブロックPTA
情報交換会

令和6年12月13日(金)に福井市にて第23回東海北陸ブロックPTA情報交換会が開催されました。

東海6県1市から31名が参加し、東海北陸ブロック各地区の活動報告や今後の活動等についての協議・情報交換がなされました。

また「第80回日本PTA東海北陸ブロック研究大会愛知大会」と令和7年度開催の「第73回日本PTA全国研究大会石川大会・第81回日本PTA東海北陸ブロック研究大会石川大会」について協議されました。



三重県PTA連合会×SDGs

SDGs (Sustainable Development Goals = 持続可能な開発目標) は、2030年までに、貧困や不平等・格差、気候変動、資源の枯渇、自然破壊などの様々な問題を根本的に解決し、私たちの世界をよりよくすることをめざす、世界共通の17の目標です。

三重県PTA連合会は、子どもたちにとって最も身近な存在である私たちがSDGsの達成に向け取り組むことが大切であると考えています。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



LINE 公式アカウント！

三重県PTA連合会では、会員のみなさんと情報をタイムリーに共有するために、LINE公式アカウントを作成しました。日本PTA全国協議会からの情報や、三重県、三重県教育委員会からの情報を、いち早くみなさまにLINE公式アカウントを通じてお伝えします。各地域毎に公式アカウントを準備していますので、お住まいの地区のアカウントを「お友だち追加」してください。

詳しくは、三重県PTA連合会のホームページからご確認ください。
<https://mie-pta.com>





令和6年10月8日
(火)三重県生涯学習センターにて第2回家庭教育委員会を行いました。講師に亀山市立図書館館長の高重京子氏をお招きし、「親子で本に親しもう〜イマドキの図書館って?」をテーマにご講演いただきました。

今どきの図書館は単なる本の貸し出し場所にとどまらず、地域交流の場や学習、仕事の拠点として進化しています。例えば、タブレット端末の貸出や無料WiFiサービス、飲食可能なテラス席、個人用の部屋とグループで利用できる部屋を持つ「個別学習室」など、1階から4階まで誰もが快適に過ごせる環境が整っています。

また、デジタル化が進み、電子書籍、オンライン講座の提供を行っている図書館もあります。私たちの子どもの頃と比べると、多目的に活用できる便利な場所となってきたと思います。

亀山市立図書館は駅の目の前ということもあり、電車や車での待ち合いの場所としても学生を中心に多くの方が利用しており、図書館としての機能だけでなく、安全安心面でもとても助かる場となっています。

ぜひ、みなさんも一度イマドキの図書館を訪れてみてはいかがでしょうか？



第2回 家庭教育委員会 開催報告

都市P連の活動紹介

「子どもたちとPTA」をテーマに
県内の都市Pの活動をご紹介します



紀南PTA連合会

『あそぼうさい！まなぼうさい！』

今年度の家庭幼児教育委員会は、ワークショップ形式のイベントを開催しました。当日は雨でありにくの天気となりましたが、70名を超える参加者がありました。

今回は「遊びを通して防災について学ぼう!」をテーマに、まずは実際に起こった地震の映像を参加者全員で見た後、3つのグループに分かれて各ブースの体験をしました。イベントの最後には皆さんお待ちかねのお菓子まきを行い、大盛況のうちにイベントを終えることができました。

今回のイベントを通して、子どもたちの楽しそうな笑顔と時折見せる真剣な表情。楽しみながら防災について学んでもらえたのではないかと思います。

近い将来南海トラフ巨大地震が高い確率で発生するとされています。もし今後、実際に被災者となった時はイベントで学んだ事を少しでも思い出し、役に立ててもらえたらと思います。



木曽岬町立木曽岬小学校PTA

親子読書〜しおりづくり〜

「読んでもらう読書」から「自分で読む読書」への支援として

本校のPTA活動として、2018年度より「親子読書」に取り組んできました。家庭で一人毎月1冊以上、年間12冊以上の読書を目標に、年度当初に家族で年間の読書目標冊数を掲げて読書に取り組み、年度末に合計冊数を集約するという流れでした。

今年度からは、読書量(冊数)だけではなく、より子どもたちの読書習慣の定着を図るための支援として何かできないかと考えを巡らせていたところ、学校運営協議会にて、委員の方々から「読書を推進しているということであれば、大人に何かできないか?しおり作りはどうだろうか?」との意見をいただきました。「どこまで読んだかわかるように」「1冊の本を続けて読めるように」をコンセプトに、PTA家庭教育部や学校司書の方とも相談を重ね、PTA本部役員会での協議を経て、PTA会員のみなさんに、「図書まつり(11/5~16)」に向けた「しおりづくり」への協力をお願いできてはどうかということになりました。

子どもたちに2枚ずつ、420枚を目標に、10月1日(火)、11日(金)、15日(火)、17日(木)、21日(月)の計5回、のべ37名の保護者のみなさんに参加をしていただきました。外国につながる保護者の方も多く参加していただき、カラフルな絵柄を自由にレイアウトして、オリジナリティー溢れる素敵なしおりがたくさん出来上がりました。しおりを手にとった子どもたちも大喜びでした。

各単位P連の活動紹介

「子どもたちとPTA」をテーマに
県内の都市Pの活動をご紹介します



亀山市立川崎小学校PTA

川小で P (パツと) T (たのしく)

A (あそびましょう) "逃走中"



この行事(川小PTA)は、コロナ禍で、子どもたちの行事が軒並み中止となる中で、子どもたち同士が接したり、競い合ったり、楽しんだりする機会を何とか作りたいという想いから企画運営を行ったものです。逃走中のほか、カレーを作ったり、工作体験を親子で行ったりしました。

現在コロナは収束しましたが、教育課程に組み込むために、体育的な要素、特別活動の要素、ふれあい活動、地域とのつながりの要素を盛り込みつつ、逃走中を引き続き実施しています。

今年度は、保護者のほか、以前お世話になった保育園の先生、スポーツ団体の先生等もサプライズゲストとして招待しました。校長先生から子どもたちへのメッセージや人気アニメ等を題材にして実施するなど工夫を凝らしています。子どもたちは、コスプレした保護者ハンターから逃げ切り、綱引きや学校〇×クイズ、ハンターとの対決リレー等様々なミッションをクリアし、生き生きとした表情を見せてくれました。

PTA活動紹介動画



三重県PTA連合会では、PTA活動について紹介する動画を作成しました。

多くのみなさまに視聴いただきPTA活動を身近に感じ、関心をもっていただければと思います。

右記の二次元コードからご覧下さい。



松阪市立中部中学校PTA

『子どもたちと一緒にボランティア活動』

防災学習をしてきた3年生を中心に、「能登半島地震支援物資ボランティア」が発足しました。自分がその立場になったときに周りに何をしてほしいか、また、何をしてもらえると嬉しいのかという想い、そして、自分たちで行動する大切さ、人の温かさを感じる取り組みです。この子どもたちの呼びかけに、私たち保護者も微力ながら支援金や支援物資を学校に届けました。それは一度だけでなく、1月から11月の合計11日間に及び、継続してボランティア活動を行う子どもたちの姿を温かく見守ってきました。12月には報告会を行い、福井県河北郡内灘町社会福祉協議会とオンラインで繋いで、報告会を見ていただき、感謝状をいただきました。

また、2年生が総合学習で進めている「服のチカラプロジェクト」では段ボール箱40箱分の服が集まりました。

子どもたちが社会に出てからも学校で学んだことが生かせるように支えてあげることが私たちPTAの活動に繋がっていると考えます。

防災学習をしてきた3年生を中心に、「能登半島地震支援物資ボランティア」が発足しました。

令和6年度「楽しい子育て全国キャンペーン」

～家庭で話そう！我が家のルール・家族のきずな・命の大切さ～

(公社)日本PTA全国協議会主催の三行詩募集に、県内より273点の応募をいただき、下記の15点を選出し、三重県PTA連合会より応募させていただきました。多くのみなさんのご応募、ありがとうございました。

三行詩

★県P会長賞

●上村 永吉
亀山西小学校

「ねえ ねえ あのさ」「なあに？」まい日、ぼくのキモチをいっぱい聞いてくれる。まい日、ぼくのココロがほっとする。だから大好き、ぼくのかぞく。

★入賞

●中谷 心咲
薦原小学校

ずっとなりたかった1ねんせい おきにいりのらんどせるで きょうもげんきに行くよ いきます

●山本 千晴
大山田小学校

ただいまという かえってくる おかえりのこえ

●中井 咲月
米ノ庄小学校

お父さん 毎週木曜日ダンスの送りむかえ ありがとう 私にできることがあったら私をたよってね

●佐久間莉穂
松江小学校

「ぎゅーしてくれる？」ときく私 「はい、どうぞ」とお母さん 元気が出るよ。エナジーチャージだ 今日も一日がんばれる

★県P会長賞

●山田浩太郎 西郊中学校 ありがとう その一言がありがとう

★入賞

●富板 唄名
川越中学校

「こなくていいよ」と言っただけ母さがす 本当はうれしい授業参観

●佐藤 優羽
川越中学校

ママは仕事と家事の二刀流 どんなに疲れていても私をやさしくカバーしてくれる おかげで毎日私は元気にホームイン！

●水野 花音
川越中学校

新しく買った大きいテレビ ご飯を食べているときは絶対つけない 会話が楽しい家族の暗黙のルール

●多川 竜誠
香海中学校

僕が笑うと家族も笑う 家族が笑うと僕も笑う

★県P会長賞

●田端 七恵
中川小学校

ケンカをした日でも、一呼吸おいて「大好きだよ」と伝え合う。次の日には笑顔で「おはよう」と言えるように。

★入賞

●大河内信行
香海中学校

「明日は早く起こしてね」言われた通り起こしたら「なに！(怒)」と言って起きない娘(ちゃんと起きろよう)とつぶやく父 まあ眠いよね でも宿題は！?

●富増 有子
城東中学校

娘が成長した分 私も親として成長したい。娘が笑顔でくれた分 私の幸せが増える… 私を親にしてくれて ありがとう

●川端 有美
久保中学校

「今日はどうだった？」帰ってすぐの日課。あなたにとっては、めんどろな時間でしょうが、もう少しだけ、つきあってね。

●奥野 幸
幸第五小学校

反抗期…さみしい母はスマホ見て 昔の写真に癒される未来の笑顔を楽しみに育児の気合い入れなおす

みえの子どもたちの家庭学習の習慣化を

～やる気を引き出し、自ら学ぶ習慣を身につけるために～

子どもたちには自ら育つ力と多くの可能性があります。子どもたちが、さまざまな学びの場をとおして、「わかった！できた！」という達成感を積み重ね、自己肯定感を高めることができるよう、多くの大人が子どもたちに関わり、励ましながら、子どもたちの学びと育ちを支えることが大切です。

子どもを見守りほめる機会を

子どものやろうとする意欲や取り組んでいる過程のがんばりを認め、励まし、ほめていきましょう。

一緒にルールづくりを

子どもたちが、ゲームやスマホ、インターネットを適切に使用できるよう家庭で話し合い、使用時間などのルールづくりに取り組みましょう。

地域で支える体制づくりを

地域のさまざまな主体が連携し、家庭での学習の習慣化を支える体制づくりを進めましょう。

コンテンツのご紹介

●チェックシート

小学生用		中学生用	
項目	達成状況	項目	達成状況
学習計画を立てる		学習計画を立てる	
学習計画を実行する		学習計画を実行する	
学習計画を振り返る		学習計画を振り返る	
学習計画を修正する		学習計画を修正する	
学習計画を評価する		学習計画を評価する	

●学習動画

動画名	視聴状況
みえびと いっしょに こぼれよう	
みえびと いっしょに こぼれよう	
みえびと いっしょに こぼれよう	
みえびと いっしょに こぼれよう	

詳しくは「みえの学力向上県民運動」ホームページをご覧ください。

<https://www.mie-c.ed.jp/kenminundou/>



(2024年7月現在の内容です。)

★引受保険会社

- AIG損害保険株式会社
- 東京海上日動火災保険株式会社
- 2024年度は、15,000名以上の方が加入しています。

【ご加入に関するお問い合わせ】

AIG損害保険株式会社 三重支店

〒514-0036 三重県津市丸之内養正町4-1 森永三重ビル2階
TEL:059-226-3911 <https://www.aig.co.jp/sonpo>
受付時間/土・日・祝日・年末年始を除く 午前9:00～午後5:00

S-240659 (2025-08)

24時間補償!!

三重県PTA
こども総合保障制度

県PTA連合会では、PTA会員のお子さまを対象とした団体保険契約を従来より行っております。

これは、県下に実績を持つ損害保険会社2社の共同保険であり、団体割引・過去の損害率による割引が適用されます。

★保険種類

こども総合保険・自転車総合保険

★保険期間

2024年5月1日より1年間

★案内時期

パンフレット・申込書などは、毎年4月上旬に学校を通じてお子さまへお渡ししています。

一般社団法人
三重県PTA安全
互助会だより

一般社団法人

三重県PTA安全互助会

災害補償制度のご案内

共済・保険の種類

傷害共済、PTA賠償責任保険

PTA活動充実発展のためには、各種活動中に生じる事故を防止し、安全教育を徹底するとともに安心して活動できる体制が必要です。そこで本会は、会員がPTA活動中の未然に防ぐことができない事故により災害を受けた場合、一定の補償をし、なお一層円滑な活動の運営を図るために設けられました。

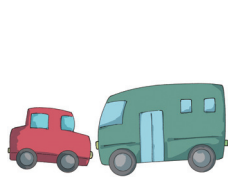
傷害共済金 お支払いの例



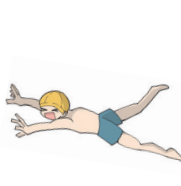
●PTA主催のバレーボールでアキレス腱を断裂した。



●PTA主催の会議に行く途中、自転車で転んでケガをした。(PTA行事に参加するための所定の場所と自宅との通常の経路の往復中の場合)



●PTA主催の視察・研修の途中、乗っていたバスが交通事故にあつてケガ、または死亡した。



●PTA主催のプール開放中、転倒しケガをした。

賠償保険金 お支払いの例



●PTA主催の草刈り中、草刈機に当たった石がはね、近くに止めていた車の窓ガラスを破損した。



●PTA主催のソフトボールで打者が打った球が体育館の窓ガラスに当たり、割れてしまった。



●PTA主催の運動会のため、テントのポールを数人で運搬中、ボールの端が止めてあった車に接触し、車を傷つけてしまった。

※ルールに従ってプレーしているスポーツ中の参加者の賠償責任は問われないことがあります。

○共済金・保険金を受けられる対象者

- ◆PTA会員（保護者・教職員）、協賛会員
- ◆加入PTAの所属園児・児童・生徒、および同居の親族



〒514-0061

津市一身田上津部田1234 三重県生涯学習センター2F

一般社団法人 三重県PTA安全互助会

TEL:059-233-0910 FAX:059-233-1164

詳細につきましては、上記へお問い合わせください。